

教令

「被造物を大切にするためのミサ」の式文と聖書朗読箇所について

「わたしたちがあなたを愛するために、みわががあなたをたたえますように。みわががあなたをたたえるために、わたしたちがあなたを愛しますように」(アウグスティヌス『告白』XIII, 33)。

創造の神秘は救いの歴史の始まりであり、その歴史はキリストにおいて頂点に達し、キリストの神秘から決定的な光を受けている。実際、神は自らの善を現すにあたり、「初めに、天地を創造された」(創世記1・1)のである。それは、すでに初めから、神はキリストにおける新しい創造の栄光を意図しておられたからである。

聖書は人類に、創造の神秘を黙想し、この恵み深いしるしに対して、至聖なる三位一体の神に絶え間なく感謝をささげるよう勧めている。このしるしは、貴重な宝のように愛され、大切にされ、さらに発展させられ、世代から世代へと受け継がれるべきものである。

しかし今の時代、神からわたしたちに大切にするよう託されたよきものの無責任な使用と濫用によって、創造のわがが深刻な危機にさらされていることは明らかである(教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ——ともに暮らす家を大切に』2参照)。

そのため、『ローマ・ミサ典礼書』の「種々の機会のミサまたは種々の目的のためのミサ」に、「被造物を大切にするためのミサ (Missa pro custodia creationis)」の式文を加えることがふさわしいと思われる。

聖体において、「神のみ手から生まれ出た世界は、全被造物が喜びにあふれ一つになって礼拝することを通して、神に帰るのである。すなわち、聖体であるパンにおいて、『被造界は、神化へと、聖なる婚宴へと、創造主ご自身との一致へと向かうようにと造られている』(教皇ベネディクト十六世「キリストの聖体の祭日ミサ説教」[2006年6月15日])。それゆえ聖体は、被造界全体の信託管理人であるようわたしたちを導く、環境への関心を照らし生かす光と力の源でもある」(教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』236)。

この式文は、ふさわしい聖書朗読箇所とともにラテン語で作られ、本教令に添付されたもので、教皇レオ14世はこれを承認し、公表するよう命じた。典礼秘跡省は今ここに、この式文を公布し、規範版であると宣言する。

どのような反対事項も妨げにならない。

2025年6月8日、聖霊降臨の祭日 典礼秘跡省にて

長官 アーサー・ローチ枢機卿

次官 ヴィットリオ・フランチェスコ・ヴィオラ大司教